The Yamaguchi Prefectural Museum of Art

山口県立美術館ニュース「天花」

101

天花

TENGE

contents

常設展
雲谷派展
第60回山口県美術展覧会
年間スケジュール

雲谷等益 「鯉図」 山口県立美術館蔵

Exhibition

常　設　展

第二常設展示室

雪舟への旅展　プレイベント　常設展特別企画

「雲谷派 雪舟の後継者たち」

I : 6/27tue～7/23sun
II : 7/25tue～8/20sun

表紙作品解説

雲谷等益　「鯉図」
紙本墨画淡彩　四曲屏風　一隻　150.5×172.5cm
山口県立美術館蔵

画面の中央やや左よりの水中から、体をよじりながら勢いよく飛び跳ねる鯉が主役です。鯉は、淡水魚の王者ともいうべき魚です。「鯉の瀧上り」という言葉がありますが、中国・黄河にある龍門の急流をさかのぼった鯉は龍になるという伝説があり、立身出世を意味するものといいます。つまり、鯉の絵は立身出世や力強さといったものを象徴しているテーマだといえましょう。

この「鯉図」は、雲谷派の始祖等顔の次男、雲谷等益（1591～1644）によるものです。等益はほかにも何点か鯉の絵を描いており、どうやら彼の得意な画題だったようです。等益の画風は、定規を使って描かれる建物や切り立った岩場の表現など、直線的で几帳面さを感じさせるものですが、この絵は少し違います。うねる波しぶきを割れた筆先で、ガサガサと勢いよく描いています。この荒々しい波の線と、力強くぬめり気のある大きな鯉の丁寧な質感ある描写とは対照的です。

この鯉の視線は画面の右下を向いています。その視線の先には、小さな鯉が描かれ、２匹は互いに見つめ合っています。２匹の鯉は、親子なのでしょうか？

等益は、自分の息子たちや早世した兄の子たちに絵を教育し、それぞれ画家として独立させて、雲谷派隆盛の礎を築きました。力強く跳ね上がる鯉と、それを見上げる小さな鯉。雲谷派一門をもり立てようと邁進する父等益が、我に続けと子供を見守る姿を、この絵に重ねあわせて見るのは、深読みのしすぎでしょうか？

（当館学芸員　岩井共二）

香月泰男室

「小林和作の世界」　6/13～8/20

秋穂町（現：山口市秋穂）出身の小林和作（1888～1974）は、全国各地を旅して、人の入らないような山奥にまで分け入ってスケッチを行い、豊かな色彩溢れる独特のタッチの風景画を描きました。小林和作の季節感溢れる風景画の数々を展示します。

小林和作「室戸岬」
山口県立美術館蔵

小林和作室

「香月泰男の版画」　6/13～8/20

三隅町（現：長門市三隅）出身の香月泰男（1911～74）は、かの有名な「シベリア・シリーズ」とは対照的な暖かいタッチの風景画や人物画を描いています。晩年、日本や世界各地をスケッチ旅行して、それを版画にして発表しています。明るく暖かさに満ちた版画の数々は、「シベリア・シリーズ」とは違った画家の側面を見せてくれます。

展示室風景

郷土工芸室

「現代の陶芸I」　6/13～8/20

萩焼というと、茶碗のイメージが強いですが、茶道具で使われる陶器は、茶碗だけではありません。水指、食籠など、山口で活躍している作家による蓋物（蓋付きの陶器）の作品を紹介します。

加藤重美「彩箱」1998年
山口県立美術館蔵

資料展示室

「常盤とよ子の写真」　6/13～8/13

女性写真家の草分けとして名高い常盤とよ子（1928～）は、横浜の庶民、特に女性に焦点を当てて撮り続けてきました。赤線地帯（風俗街）に単身乗り込みそこに生きる女性たちを撮ったシリーズ「巷の女」（1955頃）や、近年ドキュメンタリー映画「ヨコハマメリー」で話題となった、横浜の伝説の娼婦「ミナトのマリー」（1982)を紹介します。

※当初予定していた「細江英公の写真」から展示内容を変更しております。ご迷惑をおかけしますが、どうぞご了承ください。

常盤とよ子「ミナトのマリー　横浜　本牧」1982年
山口県立美術館蔵

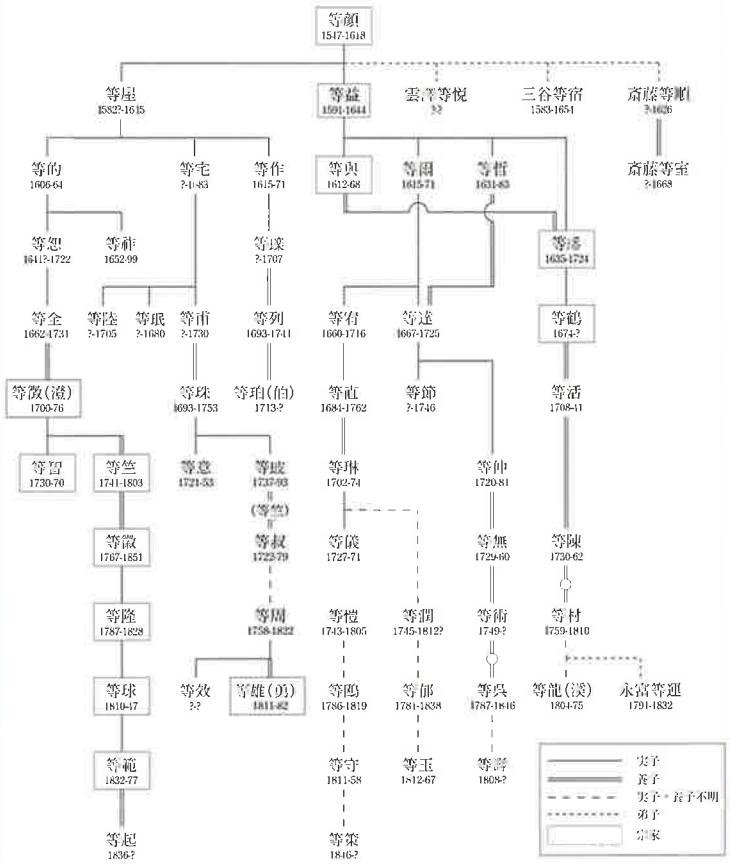
美術館ボランティアによる「常設展ギャラリートーク」
毎週土曜日　13:30～　30分程度
常設展観覧券をお持ちのうえ、常設展示室入口にお集まり下さい。

雪舟への旅展　プレイベント　常設展特別企画

「雲谷派 雪舟の後継者たち」

Ⅰ：6/27tue～7/23sun
Ⅱ：7/25tue～8/20sun

【雲谷派系図】



【雲谷派】

雲谷派とは、桃山時代から江戸時代末まで周防・長門地域で活躍した画家の一派です。雲谷派の画家たちは雪舟の後継者を自負し、山口で雪舟が住んでいた旧居雲谷庵にちなみ「雲谷」の姓をとり、雪舟等楊の名から一字をとって「等」の字を代々名乗ってきました。絵師として毛利家に仕え、地方では最大規模の画家集団となりました。中央画壇にも進出して、京都の大徳寺や東福寺で襖絵を描いたといいます。彼らは、雪舟の様式を学び、これを継承した画風を確立しました。このたびは、「雪舟への旅」展に先駆けて、江戸時代に雪舟の絵を受け継いで、この山口県で活躍した雲谷派の画家たちを紹介いたします。

【桃山から江戸時代前期まで】

雲谷派は、桃山時代の雲谷等顔に始まります。等顔は、原治兵衛直治という毛利家の家臣の画家でしたが、毛利輝元に雪舟の絵を学び継承することを任じられて、雲谷等顔と名乗ります。江戸時代に入って、等顔の次男等益は、早世した兄、等屋のかわりに雲谷家を継ぎ「雪舟四代」を名乗り、雲谷派の一門の体制作りをします。

等益には４人の息子がいました。長男等與、次男等爾、三男等哲、そして等與の養子となって宗家を嗣いだ四男の等璠。それから、等益が絵を教えた兄の等屋の息子たちがいました。彼らがそれぞれ独立して家を構え、雲谷派一族の体制が完成します。今回の展覧会では、等顔から、「雪舟七世」を名乗った等鶴の作品まで、桃山から江戸前期の雲谷派の絵を紹介します。

「夏休みのこどもたち、絵はがきでゲームしようよ」

ゲームをしながら雲谷派展の作品を美術館ボランティアと鑑賞します。
日時:7/22(土)、7/29(土)、8/5(土)、8/12(土)、8/19(土)　11:00～
対象:小学生
集合場所:山口県立美術館ロビー
申込は不要です。当日集合場所にお集まり下さい。

【雲谷派の絵のテーマ】

雲谷派の絵は、主に中国で作られたテーマやスタイルに基づいていました。よく描かれたテーマには、儒教・仏教・道教の教えに基づいた理想的な風景や、動物、中国の聖人などがあります。そこには世俗の世界から逃れた生活や自然への憧れが込められており、画題によっては仏教のさとりの境地をあらわすといいます。

雲谷等顔「群馬図」（左隻）
紙本墨画淡彩　六曲屏風　一双

たくさんの馬の絵は、武士のステータス・シンボルなのでしょう。空白を広くとる画面構成や馬の表情がどこかコミカルです。樹木や岩場の描き方に雪舟の画風を学んだあとが見られます。

雲谷等益「樹下高士山水図」（「山水図」）
紙本墨画淡彩　三幅対

表紙の「鯉図」と同じ作者なのですが、こちらの絵の方が、作者の典型的なスタイルが出ています。定規を使って建物を書いているのでしょう。まっすぐで、どこかさっぱりしたタッチが特徴です。

雲谷等鶴「花鳥図」
紙本金地着色　六曲屏風　一双

雲谷派だから、水墨画みたいな絵ばかり描いていたかというと、そうでもありません。このようなゴージャスできらびやかな絵も作ってました。江戸時代の雲谷派の代表作ともいえます。

（図版の作品は、すべて雲谷派Ⅱ　2006/7/25～8/20に展示されるものです）

■展覧会予告　「雪舟への旅」展　11/1（水）～11/30（木）

今秋、当館では没後500年を記念して大規模な雪舟展を開催します。室町時代の画僧・雪舟（1420～1506）は、生涯のほとんどを山口で過ごしました。この展覧会では、「山口との関わり」という視点から彼の人生をとらえ直し、その絵の持つ素晴らしさ、面白さを見つめ直します。国宝６点もすべて出品（展示替あり）。11月の山口に、どうぞご期待ください。

第10回やまぐち県民文化祭

第60回山口県美術展覧会

平成18年9月7日（木）▶9月24日（日）
（9月11日、9月19日は休館）

会　　場　山口県立美術館
開館時間　9:00～17:00（入館は16:30まで）
観 覧 料　一般　250(200)円　　大学生　200(150)円
※（　）内は20人以上の団体料金
※70歳以上および18歳以下の方、中等教育学校、高等学校、盲・ろう・養護学校在学生の方等は無料です。

趣旨
「つくる・みる・ささえる」の創造的調和

「つくる」（公募部門）

自由な意識や現代社会に根ざした作品を募集し、その優秀なものを展示します。

作品公募について

搬入・展示が可能なものであれば、形式・寸法・重量・材質等は問いません。
作品搬入　平成18年8月25日（金）～8月27日（日）
9:00～12:00　13:00～16:00
受付場所　山口県立美術館（山口市役所側通用門から搬入してください）
出 品 料　１点につき2000円
※ 事前協議・出品にあたっての留意点などは、山口県美術展覧会要項をご覧下さい。

審　　査　　員

青木正弘（あおき・まさひろ）
1947年生まれ。豊田市美術館学芸担当専門監。美術科の教職、岐阜県美術館学芸員を経て豊田市美術館には開館準備から携わる。工芸、立体、絵画など幅広い視野で現代の表現を取り上げる展覧会を企画。山口県美展での審査は初めて。

岡部あおみ（おかべ・あおみ）
1950年生まれ。武蔵野美術大学教授。美術評論家。芸術と社会を結ぶ企画を実施。現代美術、ジェンダー論、アート・マネージメントなどの著作多数。2007年3月まで武蔵野美術大学在外研修によりニューヨークに滞在。ニューヨーク大学客員研究員（2006-2007年）。山口県美展の審査は2回目。

河﨑晃一（かわさき・こういち）
1952年生まれ。兵庫県立美術館常設展・収集管理グループリーダー。美術作家。芦屋市立美術博物館学芸課長を経て現職。具体美術協会を中心とする関西の美術作家の研究、展覧会を企画。植物染色による布を素材とした作品を制作。山口県美展の審査は初めて。

2006-2007 schedule

山口県立美術館　平成18年度年間スケジュール

	特別展	常設展		
4	4/7～5/21 ウィーン美術アカデミー名品展 ヨーロッパ絵画の400年	4/1 山口の工芸（金工と漆関係）中末達也の世界	JAコレクションの軌跡	
5	5/26～6/4 伝統工芸新作展			
6		6/11 6/13		5/30 戦後日本画の変革 6/25
7	6/27～7/23 雲谷派展Ⅰ	現代の陶芸Ⅰ 小林和作の世界	香月泰男の版画	常盤とよ子の写真
8	7/25～8/20 雲谷派展Ⅱ	8/20		8/13 8/15
9	9/7～9/24 第10回やまぐち県民文化祭 第60回山口県美術展覧会	8/22 現代の陶芸Ⅱ 松田正平の世界 10/1	藤田隆治の世界	佐藤明の写真
10	10/2～10/31 臨時休館			
11	11/1～11/30 没後500年記念特別展覧会 **雪舟への旅展**			
12	12/1～12/11 臨時休館			
1	12/19～12/24 第58回学校美術展覧会 1/11～1/14 山口県高等学校総合文化祭 展示部門展	12/12 植木茂の小品展 桂ゆきの世界	山口県ゆかりの洋画家	12/27 日本水彩画会の二人 ―河上左京と河上大二―
2	1/31～2/4 山口県立大学卒業制作展 2/8～2/11 山口芸術短期大学卒業制作展 2/15～2/18 山口大学卒業制作展	2/25		
3		2/27 現代の陶芸Ⅲ 宮崎進の世界	永地秀太の世界	中村正也の写真 / 松林桂月の世界

Information

■休館日
月曜日（月曜が祝日もしくは振替休日の場合は翌日休館）
年末年始（12月28日～1月3日）
10月2日～31日、12月1日～11日

■開館時間
9:00～17:00（入館は16:30まで）

■料金
常設展：一般190（160）円　学生120（100）円
（　）内は20名以上の団体料金
特別展：別途に定めた料金
常設展・特別展ともに18歳以下と70歳以上および高等学校、盲・聾・養護学校に在学する方等は無料。
教育文化週間11月1日～11月7日は全ての方が無料。

山口県立美術館
The Yamaguchi Prefectural Museum of Art
〒753-0089
山口市亀山町3-1
TEL:083-925-7788
FAX:083-925-7790
http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/kenbi

山口県立美術館ニュース「天花」第101号　平成18年7月20日発行
発行 山口県立美術館　印刷 森重印刷株式会社